

「米国 WPI 防火工学科の Brian Meacham 准教授の招聘」

20160115 関澤

【来訪者受け入れ】

- 米国 WPI (Worcester Polytechnic Institute) 防火工学科下記教員の招聘 (外国人教員招聘プログラムによる招聘)
- 招聘教員: WPI 防火工学科の Brian Meacham 准教授
- 受け入れ場所: 神楽坂キャンパスの国際火災科学研究科 (龍公亭 5 階および 6 階)
- 受入れ期間: 2015 年 11 月 26 日～12 月 9 日
- 来訪目的: 下記の 3 つを主な目的として招聘した。
 - 1) 火災安全工学と性能ベースの建築規制に関する様々な課題について、学生、教員及び防災関連業界の人々に講義を通じて紹介してもらう。
 - 2) 防火工学に関して、WPI の防火工学科大学院課程、東京理科大学の国際火災科学研究科、それぞれの研究・教育活動についての情報交換と今後の交流のあり方を検討する。
 - 3) 今後の共同研究の可能性について討論する。

●対応の概要:

「建築物の震災後の火災安全性能」、「サステナブル建築物、材料、システムの火災安全上の課題」、「性能ベースの建築規制の動向及びエレベータ避難」をテーマとして 4 回にわたる講義を本研究科の学生および教員向けに実施した。毎回、20 名以上の参加を得て熱心に聴講された。また、これらの講義を通じて、米国における性能的建築防火基準の成立過程と海外との比較や、性能的建築防火基準と性能設計の各国の現状と課題に関する理解が深まった。さらに、地震後のビルにおける火災安全性能の評価手法や昨今注目をされている建築物の持続可能性と火災安全性の調和という興味深いテーマも取り上げることができた。

Meacham 先生の講義を通じて、国際火災科学研究科の院生に対してネイティブの英語での受講経験を積むことができた。国際火災科学研究科・火災科学研究センターの研究教育活動、研究施設をはじめ、国内の火災関連研究施設や行政機関 (たとえば消防庁、消防研究センター、仙台市など) への訪問を実施するとともに、質疑・意見交換を実施した。

最後に、WPI と火災科学研究センターとの間で、地震被災後における区画部材の残存防火性能に関する共同実験・共同研究の可能性について討論し、今後、実現の方向で計画を検討することになった。



Brian Meacham 准教授による講義の様子